

令和7年9月30日

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第6学年

3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 国語
- ② 算数
- ③ 理科



（2）質問調査

- ① 児童に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

4 本市の参加状況

- （1）学校数 宇都宮市立小学校 69 校（69 校中）
- （2）児童数 国語 4,021 人 算数 4,015 人 理科 4,027 人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 小学校第6学年 国語

平均正答率

(%)

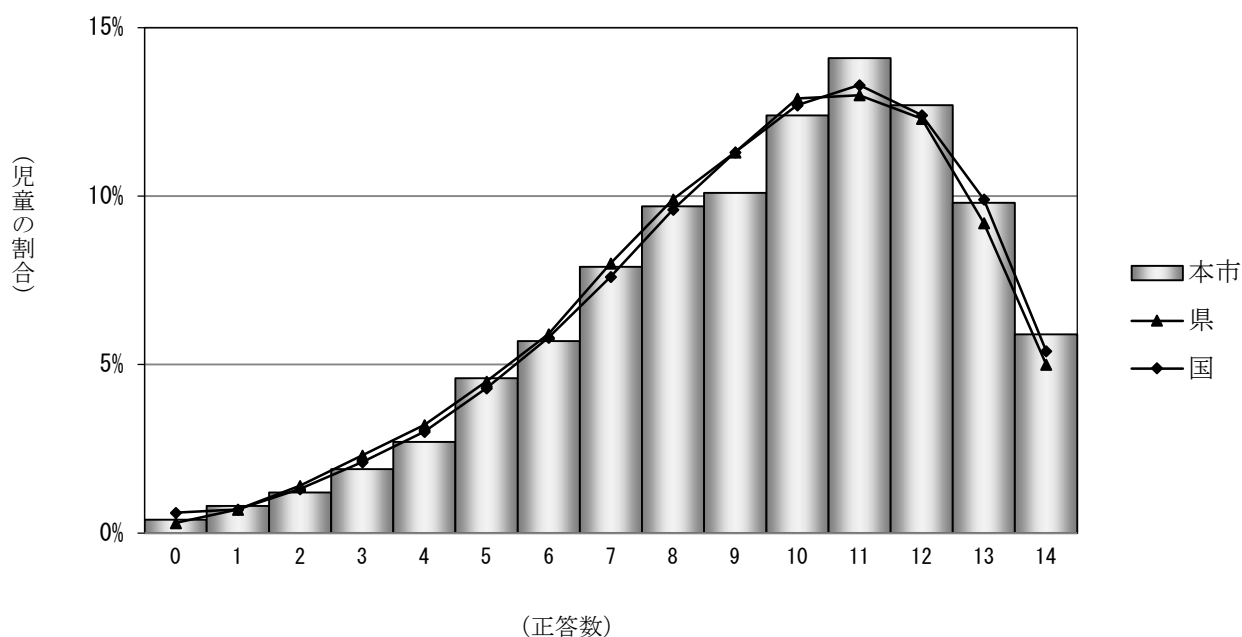
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
国 語	67.4	66	66.8	0.6

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類		区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	75.9	76.9	△0.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	62.4	62.0	63.1	△0.7
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.1	80.8	81.2	0.9
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	67.0	64.9	66.3	0.7
		B 書くこと	70.0	69.6	69.5	0.5
		C 読むこと	58.6	57.5	57.5	1.1
評価の観点		知識・技能	74.5	73.7	74.5	0.0
		思考・判断・表現	64.6	63.3	63.8	0.8
		主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 漢字を書く設問の正答率は 68.9% で、全国平均を 3.2 ポイント下回る。同音異義の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 $\Delta 0.7$ ポイント)

- 話合いの記録の書き表し方を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 62.4% で、全国平均を 0.7 ポイント下回る。図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (全国平均との差 0.9 ポイント)

- 世代によってものの呼び方が違うことについて適切なものを選ぶ設問の正答率は 82.1% で、全国平均を 0.9 ポイント上回る。時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いがあることを理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.7 ポイント)

- インタビューにおいて、質問の目的として適切なものを選ぶ設問の正答率は 73.5% で、全国平均を 1.7 ポイント上回る。自分が聞こうとする意図に応じて、具体的に知るための質問をすることに良好な状況が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.5 ポイント)

- ちらしにおいて、伝えたいことを言葉と図で説明した理由として適切なものを選ぶ設問の正答率は 82.8% で、全国平均を 1.0 ポイント上回る。図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに良好な状況が見られる。
- ちらしに書いた内容について、調べたことや経験したことを基に詳しく書き改める設問の正答率は 61.3% であり、全国平均と同じであるが、回答類型からは、提示された情報を踏まえずに書いている回答が全国平均をやや上回る。必要な情報を捉え、情報と情報とを関係付けながら書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 1.1 ポイント)

- 説明的な文章の内容を把握することについて、適切な言葉を書き抜く設問の正答率は 82.6% で、全国平均を 1.0 ポイント上回る。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

情報の扱い方に関する事項

話合いの内容を記録する際には、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるよう指導することが重要である。

また、話合いだけでなく、書くことや読むことと関連を図り、情報と情報との関係を考えたり、情報を整理したりする活動を意図的に設定することが大切である。

書くこと

文章を書く活動において、自分の考えが伝わるよう、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするためには、[知識及び技能] の「情報の扱い方に関する事項」との関連を図り、内容や要素でまとめたり、順序だてて系統化したりしながら書くことや、図示などにより語句と語句との関係を表しながら書くことを指導する必要がある。

そのため、文章を書く活動を実施する際には、目的や意図を明確にし、構成について、どの部分を簡単に書き、どの部分を詳しく書くか構想させるとともに、調べたことや自分が経験したことなど、収集した情報を整理し、整理した情報について、複雑な事柄は分解して書いたり、複数の情報を一定のきまりを基に系統化して書いたりするなど、情報と情報とを関係付けながら書くことを指導することが重要である。

2 小学校第6学年 算数

平均正答率

(%)

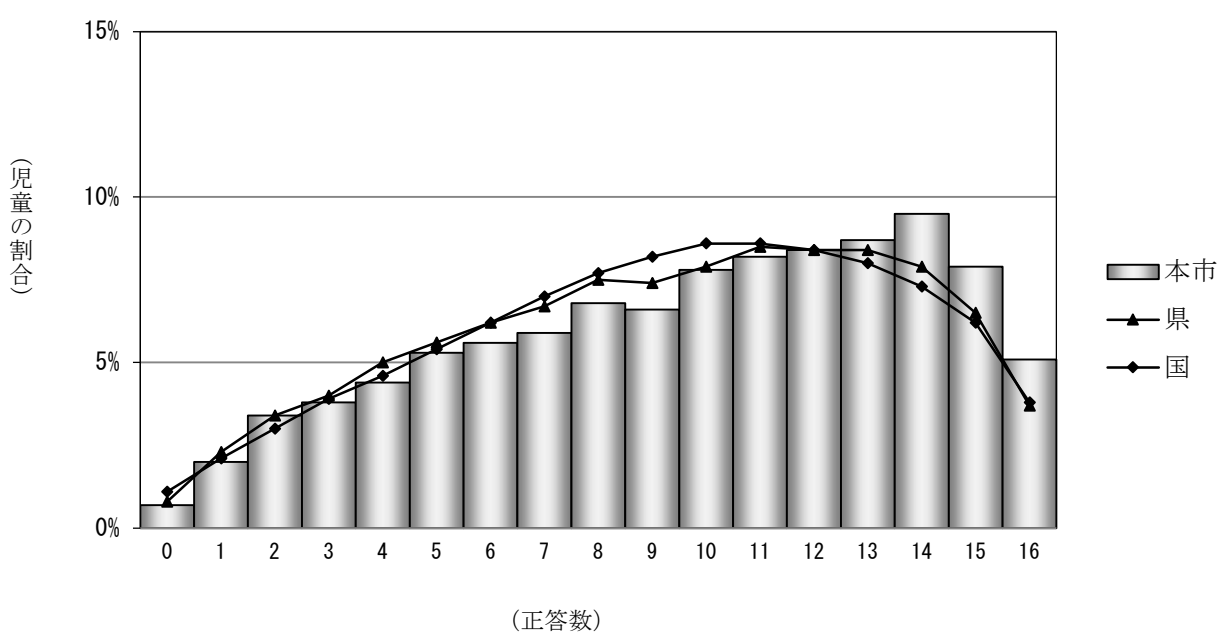
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
算 数	60.4	58	58.0	2.4

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類	区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と計算	63.6	62.0	62.3	1.3
	B 図形	60.4	57.2	56.2	4.2
	C 測定	56.9	54.4	54.8	2.1
	C 変化と関係	58.6	55.9	57.5	1.1
	D データの活用	64.4	62.0	62.6	1.8
評価の 観点	知識・技能	68.3	66.0	65.5	2.8
	思考・判断・表現	50.4	47.7	48.3	2.1
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (全国平均との差 1.3 ポイント)

- 分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は 25.5%であり、全国平均を 2.5 ポイント上回るが、無解答率は 14.8%で全設問中最も高い。分数の加法について、単位分数に着目して、計算の仕方を考察することに課題が見られる。

図形 (全国平均との差 4.2 ポイント)

- 方眼上にある図形の中から台形を選択する設問の平均正答率は 58.9%であり、全国平均を 8.7 ポイント上回る。辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の性質をもとに図形の弁別をすることに良好な状況が見られる。

測定 (全国平均との差 2.1 ポイント)

- はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む設問の平均正答率は 63.6%であり、全国平均を 2.7 ポイント上回る。ものの重さについて、示されたはかりの最小目盛りの大きさを捉え、適切に測定することに良好な状況が見られる。

変化と関係 (全国平均との差 1.1 ポイント)

- ハンドソーが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ設問の平均正答率は 83.2%で全国平均を 0.4 ポイント上回り、全設問の中で正答率が最も高い。伴って変わる二つの数量関係に着目し、必要な数量を見い出すことに良好な状況が見られる。
- ハンドソーの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ設問の平均正答率は 42.4%で、選択式の問題の中で最も低い。日常生活における割合が用いられる場面で、割合の表現の意味を解釈することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 1.8 ポイント)

- 大根の出荷量の表から、条件にあった都道府県を選ぶ平均正答率は 75.7%であり、全国平均を 4, 1 ポイント上回る。二次元表から根拠となる数に着目し、データの特徴や傾向を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

「数と計算」の領域では、数の表し方の仕組みや数量の関係に着目し、計算の仕方を既習の内容をもとに考えたり、統合的・発展的に考えたりすることが重要である。分数の加法や減法の計算の仕方については、形式的に通分をして計算するのではなく、通分することで共通する単位分数の個数に着目し、整数の加法、減法に帰着して考察できるようにすることが大切である。また、計算の過程や結果を振り返り、数学的な表現を用いて伝え合う機会を設定することも効果的である。

変化と関係

「割合」では、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察し、数学的に表現・処理することが重要である。そのためには、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を表現したりすることができるようにすることが大切である。

3 小学校第6学年 理科

平均正答率

(%)

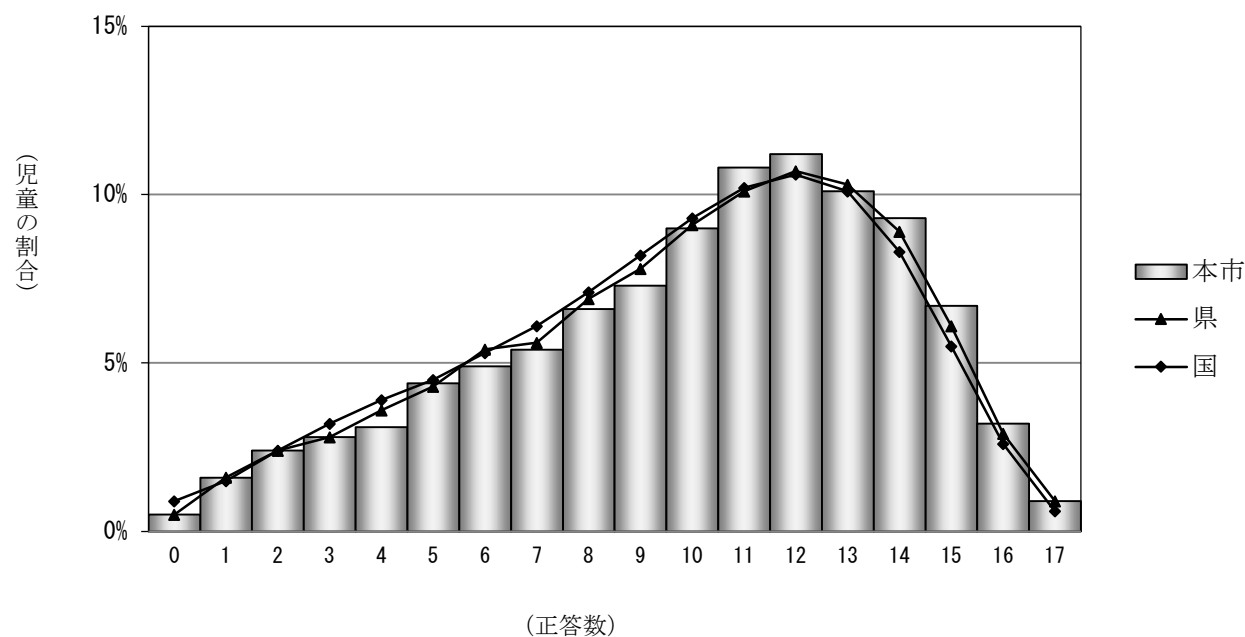
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
理 科	59.0	58	57.1	1.9

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類		区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	48.6	47.9	46.7	1.9
		「粒子」を柱とする領域	52.8	52.2	51.4	1.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	55.5	54.3	52.0	3.5
		「地球」を柱とする領域	67.9	67.4	66.7	1.2
評価の観点		知識・技能	57.5	57.2	55.3	2.2
		思考・判断・表現	60.4	59.3	58.7	1.7
		主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (全国平均との差 1.9 ポイント)

- 乾電池 2 個のつなぎ方について、直列つなぎ、電磁石を強くできるものを選択する設問の正答率は 58.4%で、全国平均を 3.3 ポイント上回る。直列つなぎについての理解に良好な状況が見られる。
- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ設問の正答率は、13.4%で、教科全体の中で最も低い。身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物の理解に課題が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (全国平均との差 1.4 ポイント)

- 海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ設問の正答率は 61.4%で、全国平均を 1.6 ポイント上回る。海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することについて良好な状況が見られる。

「生命」を柱とする領域 (全国平均との差 3.5 ポイント)

- ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ設問の正答率は 65.0%で、全国平均を 3.0 ポイント上回る。実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することについて良好な状況が見られる。
- レタスの種子の発芽の結果から、新たな問題を見いだして書く設問の正答率は 33.3%で、全国平均を 3.4 ポイント上回るが、無解答率は 11.3%であった。発芽の条件について、差異点や共通点を基に、表現することに課題が見られる。

「地球」を柱とする領域 (全国平均との差 1.2 ポイント)

- 水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ設問の正答率は 62.7%で、全国平均を 1.8 ポイント上回る。氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、学習したことと関連付けた理解に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

「エネルギー」を柱とする領域

物の性質について調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することが必要である。また、実験の結果を表などに分類、整理するなど性質について考えたり、説明したりする活動の充実を図るようにすることが大切である。

「生命」を柱とする領域

植物の育ち方について関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、変える条件と変えない条件を区別し、実験の操作とその意味を関連付けながら捉えていけるよう、解決の方法を発想し、表現する活動の充実を図るようにすることが大切である。

4 小学校質問調査

【児童質問調査の状況】調査結果（全 71 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と 5 ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（＊それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	87.0%	2.1
2	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.1%	4.8
3	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	87.7%	4.4
4	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	80.4%	0.1
5	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.7%	△0.7
6	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ＊1時間以上	57.1%	3.1
7	読書は好きですか	73.6%	3.9
8	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか ＊週3回以上	73.0%	1.3
9	5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	88.1%	3.5
10	5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	81.1%	3.5
11	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	80.8%	4.1
12	自分には、よいところがあると思いますか	88.9%	2.0
13	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.5%	1.5
14	将来の夢や目標を持っていますか	86.0%	2.9
15	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.1%	2.9
16	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	77.0%	6.4

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1～7)

- No. 1, 3 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 2.1 ポイント、4.4 ポイント上回っている。各学校においては、学級における話し合いの活動を通して、課題解決をしたり、自分の考えを深めたりするなど協働的に学ぶ授業の充実が図られているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均を 3.1 ポイント上回っている。各学校においては、家庭学習の時間の目安や具体例を示すなどの手立てを工夫していると考えられる。引き続き、家庭学習の取組を支援し、習慣化していくことが大切である。
- No. 5 の肯定的回答の割合は、全国平均より 0.7 ポイント下回っている。各学校においては、単元で計画的に振り返りを実施し、児童が自身の学びを自覚し、次の学習へとつなげることができるようにすることが必要である。

ICT 機器を活用した学習状況について (No. 8～11)

- No. 9, 10 の肯定的回答の割合は、いずれも全国平均より 3.5 ポイント上回っており、No. 11 では、4.1 ポイント上回っている。1 人 1 台端末の活用を踏まえた授業の工夫により、児童が自分の考えを発表することや、友達の考え比べることなど、活用する効果を実感しながら学習活動に取り組んでいると考えられる。また、I C T 機器を効果的に活用し、児童の思考力や表現力を育成する授業の充実を図っていると考えられる。

自分自身のことについて (No. 12～14)

- No. 12, 14 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.0 ポイント、2.9 ポイント、上回っている。No. 12 の肯定的回答は、9 割以上であり、全国平均を 1.5 ポイント上回る。各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められており、学校生活が充実するとともに、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されているものと考えられる。また、将来の夢や目標をもって前向きに生活していると考えられる。

周囲とのかかわりについて (No. 15, 16)

- No. 15, 16 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.9 ポイント、6.4 ポイント上回っている。各学校においては、児童のよさを認めるとともに、安心感をもって学校生活を送れるよう、教職員が日常的に児童とかかわりながら児童理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全 84 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と 5 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。
（＊それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	100%	3.4
2	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100%	2.5
3	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	84.0%	△6.3
4	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	84.0%	△5.2
5	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	97.1%	4.4
6	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	98.5%	8.9
7	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	1.4
8	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.1%	0.6
9	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか。（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	11.0
10	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	89.8%	24.5
11	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか	97.1%	3.8
12	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	98.6%	9.3
13	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか ＊週 3 回以上	97.1%	0.5
14	児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ＊持ち帰って活用	100%	11.0
15	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度活用していますか ＊週 3 回以上	92.7%	14.7

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や児童の学習状況について (No. 1 ～ 5)

- No. 1 の肯定的回答の割合は 100% であり、全国平均より 3.4 ポイント上回っている。各学においては、各教科の教育目標や内容の相互の関連を図りながら児童の資質・能力を育成するため、教育課程を編成していると考えられる。
- No. 2 の肯定的回答の割合は、全国平均より 2.5 ポイント上回っている。各学校においては、地域の方の協力や施設等の活用など効果的に取り入れながら指導計画を作成し、地域と連携しながら特色ある教育活動を展開していると考えられる。
- No. 5 の肯定的な回答の割合は、全国平均より 4.4 ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、児童が自ら進んで学習に取り組みながら、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。
- No. 3, 4 の肯定的な回答の割合は、8 割以上であるが、全国平均よりそれぞれ 6.3 ポイント、5.2 ポイント下回っている。わかりやすい授業により学習内容を理解し、できたことやわかったことを認め、興味をもたせるとともに、児童のつぶやきを拾い上げ、児童の発言のよさを全体に広めるなどして、自信を育てる指導が必要である。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 6, 7)

- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均より 8.9 ポイント上回っており、No. 7 の肯定的回答の割合は 100% である。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 8, 9)

- No. 8, 9 の肯定的回答の割合は、9 割以上と高く、それぞれ全国平均よりそれぞれ 0.6 ポイント、11 ポイント上回っている。学校全体で調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 10～15)

- No. 10 の肯定的回答の割合は、全国平均より 24.5 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No. 11, 12 の肯定的回答の割合は、全国平均よりそれぞれ 3.8 ポイント、9.3 ポイント上回っている。コミュニティスクールモデル校の取組や、各学校において魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と教育課程の趣旨を共有しながら連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No. 13 の肯定的回答は 9 割以上と高く、引き続き各学校における 1 人 1 台端末の効果的な活用の推進が必要である。No. 14, 15 の肯定的回答の割合はそれぞれ全国平均より 11 ポイント、14.7 ポイント上回っており、各学校における 1 人 1 台端末の家庭と連携した活用が図られている。

【児童質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に 25%ずつ、4 層（A－D 層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A－D 層間の開きの大きい質問は、正答率の高い児童ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

＜A－D 層の差が 10 ポイント以上のものから抜粋＞

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A－D 層の差	肯定的な回答割合
1	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	29.9	94.5%
2	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	27.0	68.6%
3	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） * 100 冊以上	25.6	73.2%
4	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	23.6	81.4%
5	5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.8	70.0%
6	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	22.7	83.3%
7	5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	21.3	80.7%
8	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	20.4	85.4%
9	理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか	18.8	86.9%
10	5 年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	17.7	78.9%
11	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	16.8	87.6%
12	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	16.6	78.8%
13	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	13.7	83.3%
14	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	13.0	87.5%
15	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	13.0	82.4%
16	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	12.4	84.2%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率が高い児童の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。

- ➡ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童ほど、正答率が高い。課題の解決に向けて、知識・技能を生かし、自分の考えをまとめ、効果的に伝えるなど思考・判断・表現の過程を重視し、児童の資質・能力を育成することが大切である。

主体的な学習の調整について

- ・ 学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。
- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。

- ➡ 児童が見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返って次につなげ、主体的に学習に取り組んでいる児童の方が、正答率が高い。単元を通して、既習事項やこれまでの学び方を用いて課題解決の見通しをもたせる場面や、学んだことを実感し、次の学習や実生活に生かせるように振り返る場면을計画的に実施することが必要である。

ICTの活用について

- ・ ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成している。
- ・ ICT 機器を使って情報を整理（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）している。
- ・ 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
- ・ 話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。

- ➡ ICT機器を活用することができると考えている児童ほど、各教科の正答率が高い。また、1人1台端末を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現のために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進していく。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・ 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。
- ・ 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。
- ・ 理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるか予想を立てている。

- ➡ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。